

公益財団法人 多摩動物公園
東京動物園協会



野生生物保全センター

コウノトリ 小^{しょう}図^ず鑑^{かん}



つばさを^{ひろ}広げると2メートルもある大きな鳥、^{おお}コウ^{とり}ノトリ。

そんな^{おお}大きな鳥が日本の^{とりに}大空をとんで^しいるって知ってる？

いちどは^に日本の^{ほん}空から^{そら}いなくなってしまうけれど、

たくさん^{ひと}の^{ちから}人が力をあわせて、ふたたび^に日本で^{ほん}コウノトリが^しくらすえるようになった。

そんなコウノトリのことをもっと知ろう！

TAMA ZOOLOGICAL PARK

コウノトリってどんなトリ？

こんちやトリ！

くちばし

ながく
長くてすどい
くちばしで
エサをつかまえる。

足

ながあし
長い足で
みずべ
水辺をあるきながら
エサをさがす。

つばさ

そとがわくろ
つばさの外側が黒い。
おお
大きなつばさで
なが
長いきよりを
と
飛ぶことができる。

色

くろ
くちばしが黒い。
め
目のまわりと
あしあか
足が赤い。

指

なが
長い指で、
き
木にとまるのにべんり。
き
木の上に巣をつくり、
う
たまごを産む。

たべもの

みずべ
水辺の生き物をつかまえて食べる。

ちい
小さな生き物が

たくさんすんでいる田んぼは
コウノトリのよいエサ場となる。

ヘビ

ザリガニ

バッタ

カエル

コウノトリ

とくべつてんねん きねんぶつしでい
特別天然記念物指定

ぶんるい
【分類】コウノトリ目コウノトリ科

えいめい
【英名】Oriental stork

がくめい
【学名】*Ciconia boyciana*

きほんじょうほう
【基本情報】体長 100cm (つばさを広げると 200cm) / 体重 4~5kg

コウノトリが
すんでいるところ



中国・ロシア・韓国・日本にすんでいます。
韓国と日本では一度ずつめつてしまいましたが、
動物園などでふえたコウノトリを放すことで、
ふたたびコウノトリが見られるようになりました。



どうぶつえん
動物園での暮らし

◆ コウノトリの一生



春になるとオスとメスがつがいになって巣を作ります。巣はとても大きく、直けいが150センチメートルにもなります。巣の中に3〜5コのたまごを産みます。

親鳥が交代でたまごをあたためます。あたためはじめてからやく3日^{にち}でヒナがふ化します。ヒナは親がはきもどしたエサ（ドジョウやワカサギ）を自分でくわえて食べます。



ふ化してからやく60日^{にち}たつと巣からでます。しばらく親とすごしてから、ひとりだちをします。動物園では秋ごろに親子をわけて飼育します。



3才^{さい}ごろからつがいをつくり、たまごを産んでヒナをそだてるようになります。



つがいのきずなは強く、ほとんどの場合、一生をともにすごします。

野外でのじゅ命はよくわかっていませんが、動物園では30才をこえることもあります。

◆ 動物園でのとりくみ

● コウノトリをふやす

コウノトリはつがい^{こそだ}で子育て^{おや}をします。なかよし^{きょうだい}かどうかや、親^{おや}や兄弟^{きょうだい}でないことをたしかめて、つがい^たづくり^{まどうぶつこうえん}をしています。多摩動物公園^たでは50羽^わほどのコウノトリをいろいろなケージ^しにわけて飼育^{いく}しています。



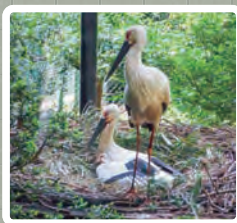
おみあい ケージ

つがいとなるあいてを、自分で見つけられるように、6羽^みくらいのグループ^{ぐるーぷ}で飼育^{いく}します。



つがい ケージ

つがい^しだけで飼育^{いく}し、安心して^{あんしん}子育て^{こそだ}ができるようにします。



だい 大ケージ

つがい^しになっていないコウノトリをむれで飼育^{いく}しています。



● 野外^{やがい}に放鳥^{ほうちよう}するために生息地^{せいそくち}に運ぶ^{はこ}

生息地^{せいそくち}にはコウノトリを放鳥^{ほうちよう}するために飼育^ししているしせつ^{しせつ}があります。動物園^{どうぶつえん}うまれのたまご^{たまご}を生息地^{せいそくち}のしせつ^{しせつ}に運び、そこで^{はこ}ふ化^{ふか}させてから野外^{やがい}に放鳥^{ほうちよう}することもあります。

たまご^{たまご}をあたためながら運ぶ^{はこ}ことができる「携帯^{けいたい}ふ卵^{らん}機^き」▶



なぜコウノトリはいなくなってしまったの？

むかしは日本でも一年中見られたコウノトリが、1971年を最後に日本から姿を消してしまいました。主な理由は3つあると考えられています。

理由① 狩猟

明治時代になると、多くのコウノトリが狩猟の対象となりました。1908年に保護鳥となり捕獲が禁止されましたが、そのころにはだいぶ数が減ってしまいました。

理由② 木の伐採

第二次世界大戦中、ガソリンに代わる燃料として、大きな松の木が切られてしまいました。伐採は戦後も続き、巣をつくるための木が減りました。

理由③ エサとなる 動物の減少

効率よくお米をつくるために、田んぼが整備され、農薬が使われるようになり、コウノトリのエサとなる生き物が減ってしまいました。農薬はコウノトリの健康にも影響をあたえました。



1955年6月13日 兵庫県木内で撮影

野生のコウノトリが高い松の木で
営巣の様子です。

撮影：高野伸二

写真提供：バード・フォト・アーカイブス

再びコウノトリを日本の空へ



野生のコウノトリが絶滅したあと、飼育下でコウノトリを増やすとりくみがはじまりました。1988年に国内ではじめて多摩動物公園で繁殖に成功し、2005年には、兵庫県豊岡市で飼育個体を野外に放す取り組みが始まりました。2007年には、43年ぶりに野外でヒナがふ化しました。今では北海道から沖縄まで全国47都道府県でコウノトリの飛来が確認されています。

江戸時代	日本各地にコウノトリがくらしていた
明治時代	コウノトリの数が減少
1956年	特別天然記念物に指定
1965年	兵庫県で人工飼育が開始
1971年	兵庫県で野生最後のコウノトリが保護され死亡（野生個体の絶滅）
1988年	多摩動物公園で国内初の飼育下繁殖に成功。 翌年、兵庫県でも飼育下でヒナがふ化
1999年	兵庫県立コウノトリの郷公園が開園
2005年	兵庫県で5羽を野外に放鳥
2007年	兵庫県で放鳥後はじめてのヒナがふ化
2013年	IPPM-OWS 設立 ●
2015年	福井県と千葉県野田市で放鳥開始



コウノトリの個体群管理に関する
機関・施設間パネル

動物園など生息地以外でコウノトリの保全を行う施設と、生息地の中で保全に取り組む施設が情報を共有し、協力してコウノトリを守るための取り組みを行っている。



コウノトリ小図鑑



野生生物保全センター
〒191-0042 東京都日野市程久保7-1-1
TEL 042-591-1611

コウノトリをまもる 2

◆ 生息地でのとりくみ

● コウノトリを野外に放す

野外に放す個体は、遺伝的な多様性も考えて選んでいます。野外でコウノトリが繁殖し、数が増えていくことをめざして、2005年から毎年コウノトリが放されています。

● コウノトリのくらしを調べる

野外のコウノトリにつけられた番号入りの足環を見て、どの個体かを判別し、行動する範囲や巣づくりをする様子など、コウノトリのくらしを調べます。



コウノトリにつけられている足環

● 生息環境をつくる

餌場をつくる

コウノトリは川や水田、湿地、農地や草地など、いろいろな場所をエサ場にしています。こうした場所でエサとなる生き物がすめるように、農薬や化学肥料を減らし、生き物をはぐくむ農業を行うなどの工夫をしています。こうした方法で収穫した農作物は地域の特産物になります。



コウノトリ育む農法により栽培された米

巣をつくるための塔をたてる

大木が少なくなった今では、コウノトリが電柱や送電鉄塔などに巣を作ろうとし、コウノトリにも人にも危険な場合があります。そのため、巣を作るための塔を設置しています。



コウノトリが巣をつくるために設置された塔

◆ コウノトリをまもるためにみなさんにできること

コウノトリのことを知る

水辺に出かけ、生き物を見つける
そして水辺を守る方法を考える

「コウノトリ米」などの商品を買って利用してみる

日本のどこかであなたもコウノトリに会えるといいですね

